

MiNT

ミント

2015年 7月 6日発行

Vol.4

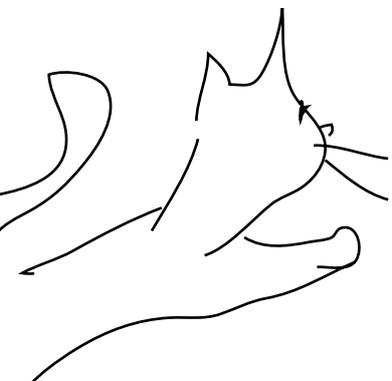
みんなで決めよう「原発」国民投票 会報誌



国会に
請願署名を
提出して
きました!

四苦八苦しましたし、ハラハラすることもありましたが、何とかみんなで力を合わせて、請願署名を国会に提出することができました。今回良かったことは沢山あります。その中でも一番は、会が前進していることを実感でき、また外に示せたことです。会の発足から早 4年が経ちましたが、まだまだこれからです。

アフリカに伝わることわざに「速く行きたいなら、一人で行きなさい。遠くへ行きたいなら、みんなで行きなさい」という言葉があります。再稼働が近づいているとされる状況で速く行くことももちろん大切ですが、更にもみんなで力を合わせて、アイデアを出し合って、遠くへと進みたいと思います。「原発」国民投票の実現に向けて、一緒に頑張りましょう。





鈴木克昌議員



逢坂誠二議員

ミニント 第4号 目次

特集・国会請願署名提出と院内集会	3
原発30キロ圏内の自治体に住民投票を提言	7
大阪市の住民投票 レポート(関西)	8
原発埼玉県民投票報告	10
岩波ブックレット出版のお知らせ	11
アースデイでシール投票 レポート(東京)	12
報告「311を忘れないキャンペーン」	13
各地の取り組み	14
インフォメーション	15
編集後記	16

この会報は、みんなで決めよう「原発」国民投票に会員登録し、年会費を納めてくださった方にお送りしています。



福山哲郎議員



阿部知子議員



徳永エリ議員

「原発」国民投票法の制定を求める 国会請願署名を提出

5月28日、衆院議員会館（東京・永田町）



5党12議員に5万余筆託す。
累計16万5千筆の想いを込めて。

5月28日（木）、会がこれまでに収集した約16万5千筆の署名のうち、5万2143筆を国会（衆参両院）に請願署名として提出するため、12人（5党）の紹介議員に手渡しました。これは、3・11以後に提出される、日本で初めての「原発」国民投票を求める国会請願です。請願署名とは、請願法という法律に基づいて国会に提出される署名のことです。私たちの会が設立当初から集めていた署名はもともと請願署名を想定していませんでしたが、議員事務所や国会事務局と連絡を取り、確認が取れたため、このたび請願署名として提出する運びとなりました。

「国会請願の紹介議員になってください」とお願いするに当たり、当会が国政選



紹介議員

（2015年6月30日現在）※敬称略

【衆議院】

河野 太郎	（自由民主党）
阿部 知子	（民主党）
逢坂 誠二	（民主党）
近藤 昭一	（民主党）
鈴木 克昌	（民主党）
横路 孝弘	（民主党）
玉城 デニー	（生活の党と山本太郎 となかまたち）

【参議院】

相原 久美子	（民主党）
徳永 エリ	（民主党）
福山 哲郎	（民主党）
又市 征治	（社会民主党）
山田 太郎	（日本を元気にする会）

挙のときに実施した公開質問状で「賛成」と答えてくれた人を中心に、約60人の議員にアプローチしました。公開質問状の作業は、候補の連絡先の調査、発送作業、回答のホームページへの掲載など、本当に骨が折れる作業でしたが、今回、それが報われた気がします。議員事務所に電話をするときに「公開質問状で賛成をしていただきました」というと、秘書さんも取り合ってくださいました。

28日の午後、国会議員の事務所へ署名を持参する作業は、集まった会員・賛助人が4つのチームに分かれて、手分けして行いました。既に会の趣旨に強く賛同して、紹介議員になると快諾してくださった議員さんの事務所を訪問しているの、非常に温かく迎えてもらえました。特に、5人の国会議員が直接出迎えてくださり、大変勇気づけられました。



副運営委員長 石崎大望

北海道運営委員 山下元信

請願署名を議員に託した後、同日16時半からは、衆議院第一議員会館内で記者会見を開き、請願署名の報告を行いました。運営委員長の鹿野からの説明の他、北海道、東京、神奈川、大阪、兵庫の各地の当会の中心的なメンバーがリレートークを行い、「いま何故『原発』国民投票が必要なのか」を強く訴えました。

「国民投票がある方が、行政の人も立法の人も幸せになれる」

リレートークのトップバッターは、北海道の運営委員を務める山下元信さん。「あの惨状を見て、たくさんの方がいろんな人のことを本当は思っているのに、それを行政に届ける仕組みが不足している」と思ったと、運動に関わるようになった動機を説明。人間は「行き過ぎてますよ」と他人に言ってもらうことによって気持ちのバランスが取れ、偏らない判断ができるという点を指摘した上で、「行政の人や立法の

人にとっても、『行き過ぎたときにはすぐに言ってもらえる』という仕組みがあればメリットがあるし、同時に「変に政治に冷めた人とか『政治家なんて』という人が、実際に無くなると思う」として、「国民投票がある方が、行政の人も立法の人も含めて、全体が幸せになれると思ってやっています」と結びました。

「選挙以外に自分の意志をちゃんと政治の場に届けることができる」

二番手は、石崎大望・副運営委員長です。東日本大震災の後、整体ボランティアとして福島に行き、分断や絶望、閉塞感、そして被ばくの問題に接したときに「人間がそこに生きているのにこんなことが起きているということ」が本当に悔しかったと話し始めます。会に関わるようになって、「選挙以外に自分の意志を政治の場に届ける、ちゃんと表明することができる」「住民投票という制度に、また未来を選ぶ主権者として『反対と言うだけではなくて意思決定の場に自分達が立つぞ』という

時に何かが変わっていく」ということに希望を感じてこの運動を続けてきたと言い、「国民投票をしたというたった一つのことだけで、意識というのはかなり変わるのではないか」「それによって社会にキツカケが生まれるのではないか」と締めくくりました。

「一部の資本家と権力がある人に任せない」

次は、神奈川の会員の横岸澤美行さん。「脱原発をしたくてこの運動をしている」という横岸澤さんは、3・11まで「官僚の方々と議員さんにお任せ」していて、事故が起きてから初めて「実はこんなに原発があるんだ」ということ、また原発の問題には深く利権が絡んでいることを知ったという。そして「その利権の枠を外すためにはどうしたらいいのか?」と考えたとき、選挙では原発が大きな争点にならない状況で「一部の資本家と権力がある人に任せるのではなくて、私達一人ひとりで勝負するしかないんじゃないか?」と

リレートーク記者会見

いま何故「原発」国民投票が必要なのか

TOKYO
2015-05-28
NAGATACHO

神奈川 横岸澤美行さん



国民投票の実施を求める理由を語りました。また、原発は安全保障とも絡むことから「もしどこかの大国からプレッシャーがかかっているとすれば、私たち日本人が全体としてNOという機会をつくる」必要があると、その意義を訴えました。

「民主主義に活力を与える、その方法としての住民投票・国民投票」

四番手は、大阪市の大音智史・運営委員です。事故が起きて「それまで信じていた原発や科学技術に対して懐疑心」を持つようになったが、「反対！即廃炉！絶対反対！」という運動をしても「前に進

まないんじゃないか」と

感じ、「目に見える

形で民意を表

す」ことがで

きる国民投

票が必要



大阪運営委員 大音智史

だと思い、運動に加わったという。また、最近では新たな意識が加わってきたと話します。国民が政治に無力感を抱いている中、5月に行われた大阪市の住民投票を経験して、「自分が一票を投じれば変わる、一票が必ず活かされるといふ制度とか、考える機会を与えたらみんな考えるんだなということ、不十分ではあったけれども実感した」として、「民主主義に活力を与える、その方法としての住民投票あるいは『原発』国民投票に期待してやっていきたい」と抱負を述べました。

「議論の空気、議論の場をつくる。私たちの会だからできること」

最後を飾ったのは、兵庫県に住む森恭子・副運営委員長。森さんは、3・11の原発事故の後、自分がこれまで原発について何も知らず、何も考えてこなかったことに対して「私自身が非常に衝撃」を受け、そして「無関心な人が絶対にはいけな

い」と思い、「賛成でも、反対でも、またよくわからない人も一緒に考えよう」という活動の趣旨に共鳴したという。4年が経ち国民投票という言葉が浸透してきた今、会がこれからやらなければならないのは、実際に「原発」国民投票が実施されることをイメージして、どのような議論の空気や議論の場、国民が学んでいく過程を作るのか、それを実践していくことだと訴えます。そして、反対運動ではない「私たちの会だからできる」として、「日本社会に議論文化を根付かせる」という大きな役割を会が担う必要があると締めくくりました。

記者会見には、国会会期中で忙しい中、民主党幹事長代理の福山哲郎議員にご参加いただきました。官房副長官として原発事故を経験した福山さんは、「非常に難しい問題であるからこそ、国民の皆さんお一人お一人に考えていただいで、選択



副運営委員長 森恭子



記者会見で話す福山哲郎議員

ともに頑張りますよ」とのメッセージをいただいています。さらに、山田太郎議員からのメッセージが読み上げられました。山田議員からは、所属する「日本を元気にする会」が直接民主型の政治の実現を目指していること、松田公太代表が辺野古の基地建設について住民投票が必要と安倍首相に質問したことなどを紹介した上で、「原子力発電所に関しては、もっと住民の直接的な声を聞くべきです。『原発』の国民投票の実現に一緒にがんばって参りましょう」との力強い言葉をいただきました。

をしていただくというプロセスが重要」だと思つて、民主党政権時に討論型世論調査を実施したこと、一般の市民が議論して賛否を決め、政権が決定した「30年代ゼロ」という方向性がうやむやになってしまっていることを訴えました。また、「みなさんにぜひ、応援を、という気持ちで来ました。ぜひ頑張っていたければと思います」とエールをくださいました。

また、徳永エリ議員の秘書の方にもご参加いただき、その場で発言をしていただきました。徳永議員からは「原発の稼働の是非は極めて重大な政治課題です。主権者である国民が自ら決めるために、国民投票の実施手続きを定める法律を制定し、それに基づいて原発に関する国民投票を実施するのは当然のことで、速やかに実行すべきと考えます。実現に向けて、

記者会見の様子は、東京新聞・中日新聞と共同通信の記事になりました。東京新聞には一面に、中日新聞には社会面に掲載していただきました。ホームページのアドレスも記事に記載されたため、首都圏と東海地域からの署名や賛同人の数が増加しました。また、共同通信の記事は全国の地方紙に採用されました。会としては久々に、I W J にインターネット生中継をしていただきました。

なお、請願署名の国会での審議は、会期終盤に行われるのが通例です。国会の会期が大幅に延長されることが決まったため、今後もぎりぎりまで紹介議員を増やしていく活動を続けます。みなさんも、地元の国会議員にアプローチをしてみませんか？ 興味のある方は、ぜひ会のメールアドレスまでご連絡ください。

(文責・鹿野)

コラム

議員会館訪問記

こんにちは。神奈川県賛同人の宮本と申します。つねつね賛同人有志で、イベントや街頭で、一人ひとりの方に会の説明をして署名をいただいたりしています。なので、署名の1筆の重さも、自分なりにわかるつもりです。

当会の署名用紙の文言では国会の請願ができないのでは、と思いでいたのですが、ダメ元で衆議院事務局に直接電話してみると、意外とできそうだったことがわかりました。できるのであれば、単なる要望で提出するよりも国会請願というベストの形にして残したい。

それには、国会議員に紹介議員になつてもらう必要がある。みんなで手分けして、要請をしないといけない。自分のできるだけの事をしよう。

・・・ということで、

まずは、自分の地元の、それも原発国民投票に基本的に賛成意見をアンケートで表明して下さっていたA議員さんの事務所に、賛同人2名で、話に行きました。次に隣の選挙区のK議員の事務所にも「とにかく話を聞いてもらうこと」からすべてはスタートなので、ダメ元で会のリーフレットを持って行きました。

議員会館にも、電話でアポをとつてから訪問しました。ほとんどの秘書さんは、丁寧に対応してくれました。作戦というよりは、「とにかく動く」それしかしていません。

まだまだ、当会を知らない国会議員さんは多いと思います。一人が一つの議員さんにアプローチしていけば、実現に1歩も2歩も近づくと思っています。賛同いただけます方、みんなでチャレンジしていきましょう。

最低でも原発立地30キロ圏内の自治体での「原発」住民投票の実施を提案します。

※この提言は、6月14日に会のホームページに発表したものです。ホームページには解説文も掲載しておりますので、ぜひそちらもご覧ください。

市民グループ・みんなで決めよう「原発」国民投票は、防災計画の策定が義務付けられている原発立地30キロ圏内の自治体で「原発」住民投票を実施することを提案します。この「30キロ圏内の自治体」には、原発が立地されている基礎自治体、道府県に加えて、30キロ圏内に含まれる基礎自治体と道府県が該当します。具体的には、30キロ圏内の住民、議員、首長の3者に対して、以下のとおり住民投票の実施を呼びかけます。

30キロ圏内の住民への呼びかけ

住民のみなさん、地元自治体の議員や首長に、「原発」住民投票条例の制定を呼びかけてください。また、「原発」住民投票条例の制定を求める直接請求活動について、検討を開始してください。全有権者の2%の署名を集めれば、地方自治法に基づいて議会に条例案を提出することを請求できます。私たちの会はこれまでに、東京都と大阪府で「原発」住民投票条例を求める直接請求運動を実施し、静岡県、新潟県、埼玉県での同様の運動を支援してきました。声をかけていただければ、条例案の作成や過去の事例について現地を訪問して説明いたします。

30キロ圏内の議員への呼びかけ

議員のみなさん、「原発」住民投票の実施について、住民の皆さんや同僚議員、首長と話し合ってください。また、議会で「原発」住民投票について質問をすることで、議論を喚起してください。直接請求の署名集めは、大変な労力が求められます。直接請求を待たずに、議員提案として「原発」住民投票条例を議会に提出してください。

30キロ圏内の首長への呼びかけ

首長のみなさん、「原発」住民投票の実施について、住民の皆さんや議員と話し合ってください。直接請求の署名集めは、大変な労力が求められます。直接請求を待たず、首長提案として「原発」住民投票条例を議会に提出してください。

「原発」住民投票を求める直接請求に興味のある、市民、議員、首長の方は、ぜひ、当会のメールアドレスまたはFAXまでご連絡ください。勉強会・説明会に講師を派遣するなどして、情報を提供します。

《参考》統一地方選候補者に公開質問状を送付

4月12日に行われた投票統一地方選挙にあたり、原発30km圏内の市町村を含む選挙区(今回は、鹿児島県・福井県・京都府・滋賀県が対象)の候補者77名に以下の内容の公開質問状を送付し、5名から回答をいただきました。

設問1：原発再稼働に地元自治体の同意を求める場合、「地元」の範囲は、以下のどれだとお考えですか。

- ①原発が立地している道府県と市町村
- ②原発30キロ圏内の道府県と市町村
- ③その他の範囲(その範囲をコメントに記入)
- ④どれもない(コメントあれば記入)

設問2：最寄りの原発の再稼働の是非を設問う住民投票を実施することについて、あなたは賛成ですか?反対ですか?

- ①賛成 ②条件付き賛成(その条件をコメントに記入)
- ③反対 ④どれもない(コメントを記入)

設問3：原発再稼働の是非についての住民投票を行う場合、その範囲は、以下のどれだとお考えですか。

- ①原発が立地している道府県と市町村
- ②原発30キロ圏内の道府県と市町村
- ③その他の範囲(その範囲をコメントに記入)
- ④どれもない(コメントあれば記入)

《回答》

京都府議会・京丹后市選挙区・藤原いたる(日本共産党)

設問1：③その他の範囲(50キロ。それ以外でも求める自治体のすべて。) 設問2：①賛成 設問3：③その他の範囲:設問1のコメントと同じ

京都府議会・福知山市選挙区・大槻公一(日本共産党)

設問1：③その他の範囲(250km圏内) 設問2：②条件付き賛成(民主主義が十分保障されていること。事前に原発のリスクが科学的に説明されていること。) 設問3：③その他の範囲(250km圏内)

福井県議会・福井市選挙区・山本芳男(自由民主党)

設問1：②原発30キロ圏内の道府県と市町村 設問2：①賛成 設問3：②原発30キロ圏内の道府県と市町村

福井県議会・越前市今立郡南条郡選挙区・山崎たかとし(無所属)

設問1：③原発立地県と全市町村+原発周辺(隣接する県と全市町村) 設問2：①賛成 設問3：③原発立地県と全市町村+原発周辺(隣接する県と全市町村)

鹿児島県議会・阿久根市出水郡選挙区・上筋睦雄(無所属)

設問1：③その他の範囲(三陸(3.11)でも解るとおり120km程度は、影響を及ぼす。) 設問2：①賛成 設問3：③その他の範囲:設問1のコメントと同じ。

大阪市特別区設置住民投票

Report

大音智史 関西運営委員

17. May. 2015



投票日当日。商店街を歩きながらパネルを見せて「投票はもう行かれましたかー!」と呼びかける関西チーム。

投票日の朝、自宅からほど近い投票所の中学校に向かう道には、賛成派と反対派の運動員が数名ずつ立っていました。投票に来た市民に「賛成に」「反対に」と訴えています。私も投票を済ませると関西チームで合流し、自作の「賛否対論」チラシを街頭で配布しました。市内数箇所を回りましたが、どこの投票所の前でも賛成派・反対派の運動員が並んでいます。険悪な雰囲気でもなく、数名で議論を交わす姿も見られました。日が暮れてからも投票に来る市民の足は絶えず、夜八時まで活況でした。

*

*

大阪市において5月17日に行われた特別区設置住民投票（いわゆる大阪都構想住民投票）を、関西運営委員の大音がレポートします。三十年来の大阪市民で、2012年の原発大阪市民投票運動から当会の活動に加わった私にとっても、今回が初めての住民投票の経験でした。

いきなりの実施、何を問う住民投票なのかわからない。

「え？大阪市だけなん？ 僕ら関係ないんか。なんでやねん」。吹田市に住む友人は、実施が決まったとき不満げでした。

いわゆる大阪都構想は当初、周辺市も巻き込んだ府市再編の構想でしたが、今回の特別区設置協定書案は単に大阪市を廃止解体し五つの特別区に変えるだけ。理解できていない市民・府民も多かったように思います。にもかかわらず提案者である橋下

市長は「大阪都構想」と言い続けました。

また橋下市長と維新の会に対する信任の色を強く帯びた住民投票でした。橋下市長に「期待しているから賛成」「辞めさせたいから反対」の対立が生まれ、特別区設置の是非の議論を遠ざけていました。

そんな状況の中、わずか60日で大阪市民は決断を下すことになったのです。当初の世論調査でも「よくわからない」という意見が多数を占めていたのは当然でした。

説明会は超満員、毎日入るビラ。街は住民投票一色に。けれども・・・

「ビラとかポスターとか見たけどさあ。お互いに相手は詐欺やデマやと言うてるや



民家に貼られた賛成／反対のポスター。並んで貼られているのは珍しい。



独自チラシ。表で投票の重要性を訴え、裏は賛否両論を整理してソース元サイトを紹介したもの。

ん。あれどつちがほんまなん？」

と何人かの友人に聞かれました。テレビCM、連日のビラ、駅や電車内での告知、街角にはいつも街宣カーが走り、街頭演説も黒山の人だかり。期間中の大阪市内は住民投票の告知宣伝で埋めつくされました。

それでも市民への情報提供は充分だったとは思えません。39回開催された市による住民説明会は超満員。しかし参加者3万2000人は有権者のわずか1.4%にすぎません。橋下市長の演説に大半の時間を割くなど、公平性にも疑問が残りました。全戸配布されたパンフレットには巻頭に橋下市長の賛成意見のみ掲載、逆に住民投票公報は市議会構成に比例して賛成1ページ・反対2ページとなり、いずれも賛否両論のバランスを欠いた偏った情報提供になっていました。

私たちを含めいくつもの市民グループが、賛否両派による公開討論会の実施を訴えました。しかし結局は実施されず、終盤に数回のテレビ討論があっただけでした。

「原発」国民投票・関西として「賛否対論」チラシを作成・配布。

「17日は大事な住民投票ですよ。ご存知ですか。賛否両論を併記したチラシを配っています。ぜひご利用ください。」

という声に、いったん通り過ぎた人が振り返って取りに来る。何度もありました。みんなは決して無関心ではない、公平で建設的な情報がほしいのだ、と感じました。

「原発」国民投票・関西チームは、可決前・可決後の二度にわたって問題点と提言を声明しました。期間中には賛否両論の対比と、この住民投票の意義を記載した独自チラシを作成。5月8日から投票日の17日まで、約1200枚を配布しました。

このような活動が行えたのは、選挙とは異なり公職選挙法の制限がなかったからです。当会だけではなく、さまざまな市民グループが自作のチラシやポスターをつくり街頭で配布していました。ネット上にも討論サイトが自由につくられ、建設的な議論が交わされていました。今後の住民投票においても、こうした市民運動に関しては自由であってほしいと思います。

結果は投票率66・83%（これは大阪市として最近10年で最も高い）、賛成69万4844票、反対70万5585票の僅差で否決されました。この結果についてはさまざまな論評がなされていますが、ともあれ大都市でも、重要な住民投票では高い投票率が得られるということが実証されたと思います。

その一方で為政者側提案による住民投票の危険性や、公平で十分な情報提供と議論の重要性など、課題も見えました。この住民投票を大阪市民として経験できたこと、さらに市民グループとして活動できたことは、貴重な経験だったと思います。

※「原発」国民投票・関西有志として公開した二度の声明と終了後の総評は、当会ウェブサイトにて公開されています。

原発の是非を問う原発埼玉県民投票を求める直接請求の運動が終わりました。集めた署名数は6万筆と、必要数の約半分でした。直接請求はできませんでしたが同じ内容を県議会に請願しました。3月13日の本会議で、民主党、共産党、社民党、一部の無所属議員（計15名）が賛成してく

れましたが、不採択となりました。不採

択の理由は、「エネル

ギーの安全供給は、

国家的な責務であり

技術的な知見を集結

し、将来のエネルギー

供給のあるべき姿を

見据えて判断すべき

事項である。国家の安全保障を左右す

るこのような重要課題を『原発は是非か』という単純な構図で判断を県民

に丸投げするという態度は、極めて無

責任と言わざるを得ない。また、原発

立地地域では長年にわたり命懸けで原

発問題と向き合ってきた。原発の是非

は立地地域の人々の安全と暮らしに重

要な影響を及ぼす。原発の是非を二者

択一的に問う今回の請願内容では、こう

した問題や影響に考慮することは困難

である」（新井一徳議員、自民党）との

ことでした。

県議会の方々には、県民自身が考え

判断し、意見表明することの意義を理

がったりといったことが各地で起きてい

たことです。住民投票の意義、可能性。

直接請求のやり方、意義、可能性など

を広めることができたことも良かった

と思います。しかし、もっと専門的に話

せる講師を招いて、各地で勉強会を行

えば、受任者も増え、より理解者が増

署名の集約の時、本当に多くの方が

関わり、力と知恵を出し合って集計する

ことができました。作業をしながら各

地の受任者やサポーターが話し繋がっ

て行くのは喜ばしい光景でした。

市区町村ごとに署名を提出すること

から、署名活動は市区町村ごとに行わ

れました。有権者の

2%を越す署名を集

めることの出来た地

域は、先述のような

充実した活動ができ

たようです。

現在は、活動の記

録を残すために編集

委員会が発足し、座

談会を開催していま

す。各地で活動した方々の声を記録と

して残し、反省を含め今後の運動に活

かせるものを残そうとしています。

埼玉県以外の国民投票の運動をされ

ている多くの方々に協力していただき

ました。特に、静岡、東京、神奈川の

サポーターの方々には大変お世話にな

りました。ありがとうございました。

原発埼玉県民投票を求める 直接請求運動を終えて

原発埼玉県民投票準備会 代表 星丘匡史

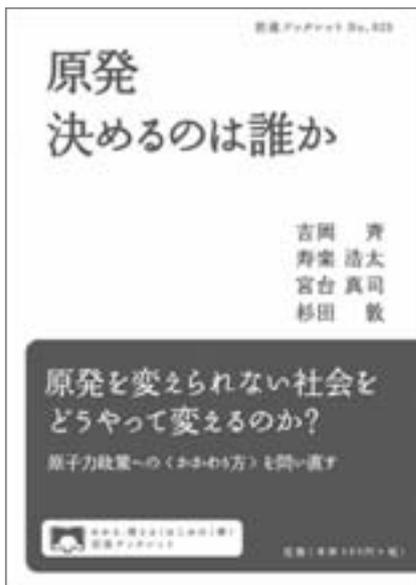


解して貰えなくて残念です。この否決理
由は、多くの人の目に触れることにはな
りませんでした。それでも運動に関
わった方々とは共有することができま
した。

今回取り組んで良かった点は、今まで
運動に参加していなかった方が参加し
たり、別々に運動していた人同士が繋

えたのではないかと悔やまれます。
全体ミーティングを3回開くことが
でき、各地の中心的な受任者が集まり
知恵を出し合うことができました。
ミーティングは毎回熱気のある真剣な
ものでした。もっと早くから、もっと回
数を重ねるべきだったと反省していま
す。

す。各地で活動した方々の声を記録と
して残し、反省を含め今後の運動に活
かせるものを残そうとしています。
埼玉県以外の国民投票の運動をされ
ている多くの方々に協力していただき
ました。特に、静岡、東京、神奈川の
サポーターの方々には大変お世話にな
りました。ありがとうございました。



岩波ブックレット 「原発 決めるのは誰か」 出版のお知らせ

著者：吉岡齊、寿楽浩太、宮台真司、杉田敦

2015年 5月 9日発行

定価(本体 580円+税)

<https://www.iwanami.co.jp/BOOKS/27/6/2709250.html>



昨年7月19日に行われた当会主催のシンポジウム「原子力政策をどう決めるか 福島原発事故をきっかけに」の内容が、5月9日に岩波ブックレットとして刊行されました。一年前になりましたが、当日の会場は満席であり、充実した議論は動画でご覧になった方も多いのではないかと思います。

ご存知の通り、福島第一原子力発電所の事故を経て、従来の「安全神話」にもとづく原発政策には反省が迫られています。民主党政権下では、民意を反映する方法、「原発稼働ゼロ」をめざす方針など、その一定の見直しもなされました。しかしながら、現在の安倍政権の成立後は事故以前の政策への回帰がみられ、原発再稼働に向けた準備も進められています。世論調査では「原発に依存しない社会」への移行を求める声が過半数であっても、それらの声は実際のエネルギー政策の決定過程に反映されていないのが現状です。

原子力政策を実際に決めているのは誰であり、本来は誰であるべきなのか。専門的知識が求められる原子力政策に、私たち市民はどのように関わっていくことができるのか。これらの問いはシンポジウムから一年を経たいまも変わらず、むしろより深刻なものとなって私

たちの目の前にあります。

第一章「原子力政策はなぜ変えられないのか」では、科学技術政策の専門家であり、原発問題について市民へのセカンドオピニオンを提供している原子力市民委員会の代表でもある吉岡齊さん(九州大学教授)の報告。第二章「どの価値を大事にしたいか」という議論から始める」では、科学技術社会学、リスクコミュニケーションの若手研究者、寿楽浩太さん(東京電機大学助教)の報告が収載されています。続く第三章「討論」いま、必要な議論は何か―「原発推進」対「原発反対」を越えて」では、二名の報告者に共同代表の宮台真司さん(首都大学東京教授、社会学)と杉田敦さん(法政大学教授、政治学)を交えた討論の内容がまとめられています。

原発を変えられない社会をどうやって変えるのか。これまでの議論に加え、「科学・技術と市民との関係」、「政策決定過程でどんな価値を選択するのか」など、原発国民投票にとって新しい論点がたくさん提示されています。当日ご参加いただけなかった方、多くの方にお読みいただきたい一冊です。読書会などにも、ぜひご利用ください。

(事務局・稲田)

Report アースデイ東京2015

鳥海幸恵 神奈川賛同人

18,19.Apr.2015



世界各地で地球環境を考えるイベントが開催されるアースデイ。4月18・19日、昨年、一昨年に続き「アースデイ東京2015」(代々木公園)にブース出展しました。

ブースでは1500枚近いチラシを配ってお話し、500筆にせまる署名とシール投票参加をいただきました。シール投票の設問は「原発について情報を得るとき、一番信頼しているのは?」。

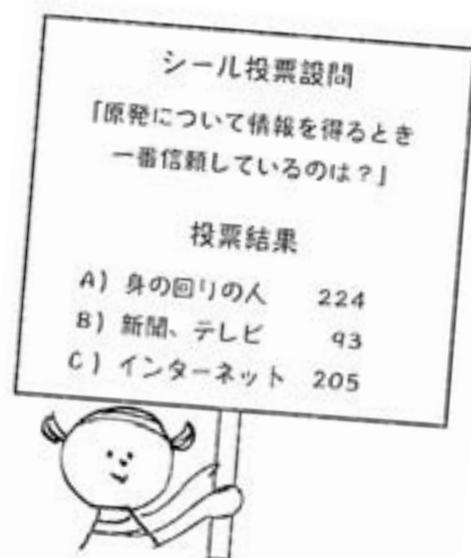
原発国民投票が実施されれば、信頼できる情報を集めて決断し投票しなければなりません。原発に反対している方々の中には、「現在のマスコミの情報は政府や電力会社の都合のいいように操作されていて、その情報を鵜呑みにする国民は正しい判断ができない(から国民投票は危ない)」という意見が根強くあります。しかしみなさんは実際にマスコミの情報を鵜呑みにしているのだろうかという疑問から、この設問にしました。

その結果、新聞やテレビなどマスコミは選択的に利用している方が多いようでした。ボードの前で悩まれる方も多く、色々な対話がうまれました。しばらく話をした後、「お兄さんが一番信頼できる」とスタッフのほっぺにシールを貼っていった若者、被災地に暮らす友人や家族を一番信頼しているという方もいました。「どれも大事だが、鵜呑みにせず総合的に判断する」という方も多く、欄外にシールがたくさん並びました。

「インターネット」については「自分で検索していろいろ選択できるから信頼できる」という意見の一方、「自分の見たい情報だけを得るので偏ってしまう」という意見もありました。また「本という選択肢がない」と問われるなど、刺激的な時間でした。

「原発」国民投票実施の最大のメリットは、原発についてこれまでにない量の情報が調査され報道され、私たちが考える材料を得られることです。シールを貼って下さった方々は、メディアの情報に対して、試行錯誤しながら考える姿勢であることが確認できました。

実際に「原発」国民投票が行われることになった場合に、一人一人の有権者が適切な情報を得て、それを咀嚼する作業をどう促していくことができるのか、会としても引き続き考えていきたいと思います。





メッセージ写真パネル、全国を巡回中

大阪・宮城・川崎・東京・鎌倉・堺で展示。総数 113 人のメッセージ。

昨年末の12月23日に開始した「3・11を忘れない。署名キャンペーン」は、5月28日の署名提出をもちましていったん終了させていただきました。

署名集めと平行して、メッセージボードで「3・11と「原発」国民投票への各自の思いを記した写真をフェイスブックのイベントページにアップしていくアクションは反響を呼び、全国から多くの方に参加していただきました。

2月11日には写真69枚をパネルにして、大阪で「3・11を忘れない」響きあう私たちのメッセージ展」を開催しました（写真左上）。

その後、パネルは全国を巡回展示。3月5日は宮城あいこープライベント、3月8日は神奈川「原発ゼロへのカウントダウンinかわさき」（写真左下）、4月18日には「アースデイ東京」（写真右下）、「アース



スデイ大船観音（神奈川）」、5月10日は大阪「アースデイはまぐら」にて、それぞれ、みんなで決めよう「原発」国民投票ブースで展示しました。

その後もメッセージ写真は全国から集まり、総数113枚になりました。みなさんご参加ありがとうございました。

facebook イベントページ：<https://www.facebook.com/events/768733233198467/>

各地域の取り組み(活動状況と活動予定)



北海道

◆ 3.11 に合わせて、道内賛同人へ一斉メールを送らせて頂きました。いくつかご返答があり、新たな交流が始まりました。◆ 札幌市内にある「シアターキノ」にもリーフレットを置かせて頂く事ができました。配る人が増えますように。

東北

◆ 主に宮城県内での催しで署名やシール投票などを行っています。◆ 30 キロ圏内の自治体の市民、議員、首長に「原発」住民投票を呼びかける提言を、地元の首長や議員に呼び掛けます。各自、他地域でも是非お取り組みください。

千葉

◆ 5月28日、これまでの署名を請願署名として提出いたしました。◆ 千葉県では民主党の田嶋要議員に紹介議員となって頂き、追加提出をすることになりました。◆ また昨年、田嶋議員にもご参加頂いた、千葉大学で行った「市民の、市民による、市民のためのエネルギー講座」の出版を、来春を目処にすすめております。

東京

◆ 4月18、19日にアースデイ東京にブースを出展。◆ 6月20日には粕江市内で原発国民投票の説明会を実施。◆ 7月には、都内で首都圏エリアの賛同人会を行い、今後の活動について話し合います。
※東京の方と一緒にアクションを起こしたい方、意見のある方は、お気軽に鹿野 (peinyo@hotmail.com、090-1702-8136) までご連絡ください。

神奈川

◆ 1月・街頭署名活動(鶴見・本郷台・藤沢) ◆ 2月・街頭署名活動(茅ヶ崎・藤沢) ◆ 3月・原発ゼロカウントダウンブース出展(川崎) ◆ 4月・賛同人有志、静岡に出張し街頭署名活動・アースデイ大船観音にブース出展(鎌倉) ◆ 5月・鎌人いち場ブース出展(鎌倉) ◆ 6月・説明会(溝の口)

静岡

◆ 6月24日の朝日新聞・朝刊4面に、「原発再稼働 県民に委ねるか」と題した記事が掲載され、静岡県民投票を巡る現在の状況が報じられました。その中で、県民投票の共同代表だった佐久間さんの言葉が紹介されています。まだの方は是非、図書館等で読んでみてください。

東海

◆ 2月8日・小出裕章さん講演会(伏見)で署名活動 ◆ 3月15日・3.15 NO NUKES! DEMO 会場(白川公園)で署名活動 ◆ 5月2日・アースデイ名古屋(栄もちのき広場)で署名活動 ◆ 6月7日・名大祭(千種区)で6つ折りのリーフレット配布 ◆ 定期活動: 栄噴水南バスターミナル前署名活動(毎週土曜日)

関西

◆ 2月11日・大阪「3.11を忘れない〜響きあう私たちのメッセージ展」開催 ◆ 2月13日〜5月17日・大阪市特別区設置住民投票におけるアクション(2度の声明と独自チラシ配布) ◆ 5月10日・堺「アースデイはまでら」に出展 ◆ 6月7日・福岡「ストップ再稼働! 3万人大集会」参加 ◆ 6月28日・第7回北千里駅前チャリティーフェスタに出展 ◆ 7月11日・京都市で「トークカフェ☆「原発」国民投票」を開催

Information

「原発」国民投票を、まだ知らない人に
みんなでPR、よろしくお願いします!

1 すぐにできること

- **インターネットの活用** / 会のツイッターや、facebook、HP (ホームページ) の情報を、リツイート・シェア・拡散して、会の存在を友人知人に広める。
- **6つ折りのリーフレット** / リフレットをPRツールとして使ってください。イベントや街頭で手配りのほかに、お近くのカフェや店舗に置いていただきましょう。
- **署名を集める** / 署名用紙はHPからダウンロードできるほか、ご連絡いただければ事務所から郵送します。HPの専用フォームからもネット署名が可能です。
- **賛同人・会員を増やす** / 身近な方、署名をいただいた方を賛同人・会員に勧誘しましょう。賛同人は会の目的に賛同する方(賛同金 1,000円)、会員は総会での議決権を持ち活動に参加する方(会費 3,000円)。会員には会報MINTと会員限定グッズをお送りします。

2 お金での ご協力アクション

- **カンパ** / お金のお話で恐縮なのですが、チラシ印刷やHPのサーバを借りるのもお金がかかります。カンパで会の運営を支えてくださいますと、大変ありがたいです。会計報告は総会でおこなっています。
- **カンパ振込先** /
城南信用金庫 稲城支店 普通口座 335551
口座名: マキカズコ
三菱東京UFJ銀行 新宿支店 普通口座 0141091
口座名義: みんなで決めよう「原発」国民投票 中村映子
三井住友銀行 新宿通支店 普通口座 9601530
口座名義: みんなで決めよう「原発」国民投票 中村映子
みずほ銀行 新宿中央支店 普通口座 2942855
口座名義: みんなで決めよう 原発・国民投票
ゆうちょ銀行 店名ゼロイチハチ 普通口座 1965734
口座名: ナカムラエイコ(店番018/記号10180/番号19657341)

3 ご意見随時募集!

また、会の運営をサポートするスタッフを募集しています。

- **ご意見募集** / 6つ折りのリーフレットやポスター、缶バッジなどデザイン全般や、HPなどウェブの改善点、当会の運営方法について等々、ご意見ご提案がありましたら、ぜひ事務局までお気軽にお知らせください。各地の運営委員を通じてでも良いですし、事務局への電話、FAX、メールでもOKです。
- **学習会** / 地元で“賛同人交流会”や“「原発」国民投票学習会”を開きませんか? 日時と場所が決まったらお知らせください。HPや、全国賛同人へ一斉メールで、告知します。予定があれば、運営委員長が講師をします。
- **スタッフ募集** / 読み物編集部のライター、取材、翻訳、HP、チラシ、ポスターなどのデザイン、コピーライター、シンポジウムなどのイベントの運営スタッフ、HP更新、動画・ネット中継の撮影・編集、ツイッター担当ほか。ぜひ、可能な範囲でご参加、ご意見やご提案をよろしくお願いします。「みんなでアクション」スピリットで、多様な意見を融合させつつ、「原発」国民投票を実現できる社会へと、みんなで楽しく、そして力強く活動していきましょう。



署名提出を終え、議員会館のそばでみんなで記念撮影。お疲れさまでした。

編集後記



打ち上げ、楽しかったですねえ。上がその直後、私ハジけすぎ(汗) (大音)

「経済財政運営と改革の基本方針2015」が閣議決定されました。これ、来年度予算はこの方針で編成するか、そのつもりで予算請求してね、と各省庁に示す、国の未来のかたち。人口構造の激減という爆発物を背負った日本の不幸をどうやって最小にするか、けっこうちゃんと考えられています。でも原力力のところは、めざすべき目標が描けてないので宙ぶらりん。政治家だって、国民投票で終着点を決めるほうが楽になる、と思ったもんです。(鳥海)

第4号となる今回の会報はこれまで一番ページ数が多く、16ページになりました。「伝えたいことが多いのは、運動が活発な証拠」と言いたいところですが、単に前回の発行(去年の11月)から時間が長く経過してしまったから、という側面も大きくあります。会報だけでなく、色々な活動をもう少し計画的に・と思いますが、なかなか追いつきません。そうそう、ブックレットは面白いので、みなさん買ってください!(鹿野)

請願署名提出の写真、いいですねえ。私もそこに居たのに議員さんと写ってる写真が1枚もない。撮影係の辛いところですよ。それと会の名称が入ったTシャツを「政治的な文言が書いてあるからダメ」と言われ、裏返しに着たのが残念でした。今度議員会館に向くときはフィナンランド語にでも翻訳しましょうか。終ってコンビニのカフェスペースでプチ

みんなで決めよう「原発」国民投票 会報誌

MINT 第4号 ミント 第4号

2015年7月6日発行

発行：みんなで決めよう「原発」国民投票
〒211-0004 川崎市中原区新丸子東3-1100-12
かわさき市民活動センター レターケース No.36
TEL: 070-5369-9707 (PHS)
FAX: 03-5539-4046
e-mail: info@kokumintohyo.com
web: http://kokumintohyo.com